

(過去の原稿「チャンス到来」をもとに AI を題材にして、KENBO の重視している考え方、逆に嫌がること、表現のクセなどを理解し、MIRA に新たに作成させた原稿)

【KENBO 異端メルマガタイトル】AI から答えが来た→集めた先で自分は何を基準に決めるのか

こんにちは、KENBO です。

AI の新機能や、AI を使った商品を見ていると、
「これも使ったほうがいいのかな〜？」
と思うことはないですか？
(私は度々あります)

自分の仕事に役立つものなら、取り入れたい。

ただ、調べたり試したりするうちに、何のために使い始めたのかが曖昧になってくる。
そんなことがありますよね？

以前、私はメルマガで「チャンス待ち志向」について書きました。

目の前に出てきた方法を見て、「これならうまくいくかもしれない」と取り入れる。
でも、自分の仕事全体をどう作っていくかが定まっていないので、
やることだけが増えていく。

そこで大切だと伝えたのが、「戦略」です。

これは今も変わりません。
会社員時代から、戦略がある場合とない場合の違いを肌で感じてきたからです。

個人事業主やフリーランスの場合は、会社のように、
誰かから「その進め方でいいのか」と指摘される機会も少ないのではないのでしょうか。

だからこそ、自分がどこへ向かおうとしているかを、
ときどき確かめるのは結構意味があるように感じます。

● 答えを集めた先で、何を進めるのか

昔は、必要なノウハウを得るために、
ネットで教材を探したり、購入したりする場面がありました。

今は AI に困りごとを尋ねて、整理された答えを得ることができます。

情報を集めること自体は、悪いことではありません。
仕事をするために、知らなければならないこともあります。

ただ、答えが手に入りやすくなっても、
「それを自分は何に使うのか」
という問いは残ります。

例えば、note で発信したいとしましょう。

- ・ 記事を書く方法を知る。
- ・ 画像を作る方法も知る。
- ・ 販売につなげる方法も知る。
- ・ フォロワーを増やす
- ・ スキをたくさんもらう

知ることは増えます。

でも、誰に何を届けたくて、そのために今は何を仕上げるのか。
それが曖昧なままだと、便利な方法を知るたびに仕事が増えてしまうかもしれません。

私が言う戦略は、立派な計画書を作ることだけではありません。

自分の目的に照らして、何を取り入れ、何を今は見送るか。
その判断を、自分でしているかということです。

● KENBO の AI の選び方にも、変化があった

私自身、ブログなどのアイキャッチ画像やアイコンを、

当初は Manus や Notebook で作っていました。

その後、ChatGPT でも作ってみると、場合によってはこちらのほうが、自分の思っているテイストに近くなることがあると分かりました。

私が面白いと感じたのは、説明することが減った点です。

好みを言葉にするのは、案外難しいんですよね。

ここはこうしてほしい。

でも、そこまで整えすぎないでほしい。

この感じは好きだけど、似ているこちらは違う。

全部を最初から説明しようとする、それだけでひと仕事です。

ChatGPT とのやり取りでは、私の好みなどを、ある程度つかんでくれているように感じることがあります。

それまでのやり取りを通じて、私への理解が深まっているのかな、と。

もちろん、いつでも思いどおりになるわけではありません。

私がそう感じている、という話です。

それでも、自分の目的に合うものを作るうえで、

「自分の意図がどれくらい伝わるか」は大きな判断材料になりました。

新しい機能だから使う、というだけでは決められないんですね。

自分が作りたいものに近づけるか。

そのために、どれくらい説明や修正が必要か。

実際の仕事に照らしてみると、選ぶ基準が少し具体的になります。

●理解してもらった先に、何を期待するか

では、自分の好みに合う答えが返ってくれば、それで十分なのか。

私は、もう少し先を期待しています。

「その目的なら、こういう見方もあります」

「今考えている方法より、こちらを先にしたほうがよいかもしれません」

そんなふうに、自分では見ていなかった方向を示してもらうことです。

自分の考えを理解したうえで、少し広いところから見てもらう。

その提案が自分にとって新しい視点だったとき、

「ああ、そういう進め方もあるのか」

と、先が見えることがあります。

私は、自分が関心を持っていることについて、知らなかった見方や可能性を知ること、大きな価値があると思っています。

困っていたところに別の道が見えると、少し元気も出る。

AI と仕事をするうえで、そういう関係も作っていききたいんです。

●提案を受け取ることと、採用すること

ただし、提案には理由が必要です。

- ・なぜ、それを勧めるのか。
- ・何を根拠に、こちらのほうがよいと考えたのか。
- ・どんな条件なら成り立つ話なのか。

もっともらしい説明が付いているだけで、信用してよいとは限りません。

AI の出してきたものに、

→自分の目的や大切にしたいことに合うか。

→示された根拠に納得できるか。

→必要なら、別の資料でも確かめる。

そこまで見て、採用するかを決めるのは人です。

実際に選んで行動すること、そしてその「責任」を、
AI に預けることはできないからです。

最初に自分の目的を持つことと、AI から新しい視点を受け取ることは両立します。

提案を受けて、目的や進め方を考え直すことがあってもいい。
ただ、何となく流されるのではなく、自分で理由を確かめて決める。

そこは大切にしたいと思っています。

●目の前の仕事に戻ってみる

AI に何ができるかを知ること大切です。

そのうえで、自分は何を進めたいのかを伝え、
別の視点も受け取り、根拠を見て決める。

今、手元にある仕事を一つ思い浮かべてみてください。

次に調べる AI の機能や商品は、その仕事の何を前へ進めるためのものでしょうか。
まだ答えられなければ、そこを AI に相談してみてもいいと思います。

自分の状況や、実現したいこと、大切にしたいことを伝える。
そのうえで、どんな進め方が考えられるか、理由も含めて聞いてみる。

返ってきた提案を、そのまま正解にする必要はありません。

「これは合いそうだ」

「ここは自分の考えと違う」

「その根拠では、まだ決められない」

そうやって確かめながら、自分の仕事を進めていく。

私が今、AI との付き合い方で大切にしたいのは、そういうことです。

KENBO

(補足事項)：前記メルマガ案ではなく、作成秘話です。

MIRA が KENBO のことを理解し、この作成完了まで 30 分もかかっていません。

私が返事をすぐに書かなかったのも、少し時間かかったくらいです。

骨子としては「採用」です。

その理由は、私の考え方、言い方なども丁寧に掘り下げているからです。

後は、この案をもとに少し手直しすれば完成しそうな感じです。

MIRA でのやりとりでは、ときどき利用者の考え方を聞いてきます。

簡単に「OK」とか「特になし」とか返事をしてでも MIRA が仕事を進めていきますが、

ある程度（数行）のコメントをしたほうがより深く理解してくれます。

実際に元の古いメルマガ原稿を読み込ませ、AI を題材に新しい切り口で文案を依頼したところ、MIRA に聞かれたのは以下の点です。これらに 2, 3 行ずつ答えてできたのが今回のアウトプットです。

1. この昔の原稿で、今も変わらない考えと、今なら言い直したい考えはどこですか？ 特に、強み・弱点・学習について伺いたいです。
2. 最近、AI の新機能や活用商品を見て、取り入れた／見送った具体例はありますか？ 何を基準に判断し、その後どうなったかを一例知りたいです。適した経験がなければ、ないままで構いません。
3. 今のあなたは、MIRA によって利用者のどんな状態を変えたいですか？ あわせて、MIRA 側で引き受けることと、本人に考え、決めてもらいたいことを教えてください。

なお、原稿の「95%以上」「週 80 時間以上」などの数字、ドラッカーの引用、成功者や強みについての断定は、現時点では再利用の根拠にしません。採用する場合に、出典・適用範囲・現在のあなたの見解を確認します。

多くのことを MIRA に任せ、自分は考えるべき本来のところに留まる。

これが MIRA の設計思想です。

▼MIRA の詳細はこちらです → <https://www.ifrv.net/mira/>